

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2010 年 10 月 14 日(14.10.2010)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2010/116775 A1

- (51) 国際特許分類:
B60N 2/42 (2006.01) B60R 21/207 (2006.01)
A47C 7/14 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2010/050901
- (22) 国際出願日: 2010 年 1 月 25 日(25.01.2010)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2009-094190 2009 年 4 月 8 日(08.04.2009) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): トヨタ紡織株式会社 (TOYOTA BOSHOKU KABUSHIKI KAISHA) [JP/JP]; 〒4488651 愛知県刈谷市豊田町 1 丁目 1 番地 Aichi (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 松田 基裕 (MATSUDA Motohiro) [JP/JP]; 〒4488651 愛知県刈谷市豊田町 1 丁目 1 番地 トヨタ紡織株式会

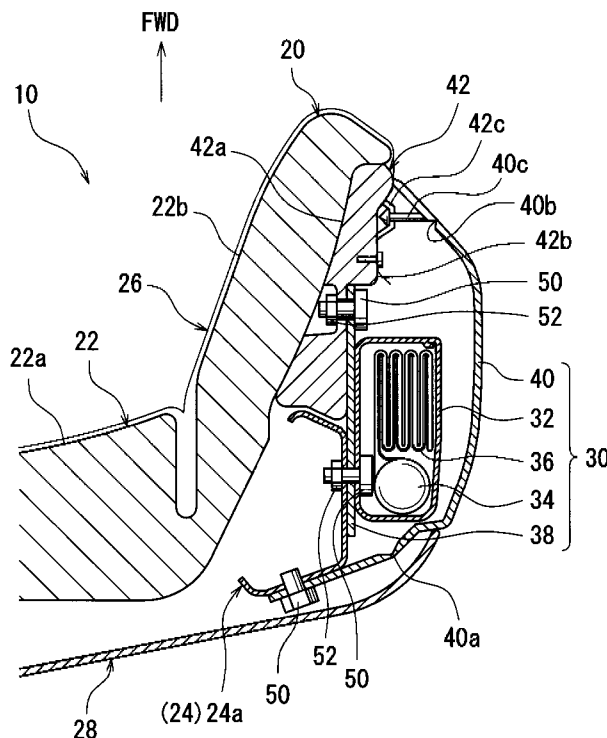
社内 Aichi (JP). 後藤 春雄(GOTO Haruo) [JP/JP]; 〒4488651 愛知県刈谷市豊田町 1 丁目 1 番地 トヨタ紡織株式会社内 Aichi (JP). 岩本 雅弘 (IWAMOTO Masahiro) [JP/JP]; 〒4488651 愛知県刈谷市豊田町 1 丁目 1 番地 トヨタ紡織株式会社内 Aichi (JP).

- (74) 代理人: 特許業務法人岡田国際特許事務所 (OKADA PATENT & TRADEMARK OFFICE, P.C.); 〒4600008 愛知県名古屋市中区栄二丁目 1 〇 番 1 9 号 名古屋商工会議所ビル Aichi (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV,

[続葉有]

- (54) Title: VEHICLE SEAT
- (54) 発明の名称: 車両用シート

[図1]



(57) Abstract: A vehicle seat (10) comprising an airbag device provided to the seat on which the occupant sits, wherein the vehicle seat is provided with a seatback frame (24), an airbag containing body (32) affixed to the seatback frame (24), and a guide plate (38) extended in the direction in which an airbag (36) which is installed within the airbag containing body (32) inflates and expands. The guide plate (38) has rigidity capable of withstanding an impact occurring when the airbag (36) inflates and expands. A synthetic resin side support member (42), on which each side support surface (42a) for supporting the body of the seated occupant is formed, is provided to each guide plate (38) on the side thereof which faces the inner side of the seat on which the occupant sits. The side support members (42) are affixed to the guide plates (38).

(57) 要約: 着座者が着座するシートにエアバッグ装置を備える車両用シート (10) において、シートバックフレーム (24) と、シートバックフレーム (24) に固定されたエアバッグ収納体 (32) と、エアバッグ収納体 (32) に内装されたエアバッグ (36) の膨張展開方向に延設されたガイドプレート (38) を有し、ガイドプレート (38) は、エアバッグ (36) が膨張展開するときの衝撃に耐えうる剛性を有しており、ガイドプレート (38) におけるシートへの着座者の着座位置側のシート内側には、着座者の体を支持するサイドサポート面 (42a) が形成された合成樹脂製のサイドサポート部材 (42) を有しており、サイドサポート部材 (42) はガイドプレート (38) に固定されている。



SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC,
VN, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB,

GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：車両用シート

技術分野

[0001] 本発明は、車両用シートに関する。詳しくは、シートにエアバッグ装置を備える車両用シートに関する。

背景技術

[0002] 従来、特開２００６－１３７３９８号公報のように、車両に設置され乗員が着座する車両用シートにおいて、着座者が着座するシートのシートフレームにエアバッグ装置を備えたものが知られている。図３に特開２００６－１３７３９８号公報におけるエアバッグ装置１３０の取り付け構成を図示している。

図３に図示されるように、このエアバッグ装置１３０は、車両に取付けられた衝突検知センサからの出力に基いてイグナイタ（発火装置）を作動させ、インフレーター（ガス発生器）から発生するガスの圧力によってエアバッグ１３６を瞬時に乗員と車体部分の間に膨張展開させるものであり、衝突時において乗員を適切に保護するための装置として従来から重要な役割を果たしているものである。

[0003] 図３に図示されるように、この特開２００６－１３７３９８号公報におけるエアバッグ装置１３０は、車両の側面からの衝突による衝撃に対し、乗員の側部とこれに対面する車室内の側壁面との間にエアバッグ１３６を膨張展開させて乗員を保護するものである。このエアバッグ装置１３０の取付け構成は、シートバックの骨格を構成するシートフレーム１２４の側部に隣接してエアバッグ装置１３０が取付けられて構成されたものである。これは、シートフレーム１２４の剛性を利用してエアバッグ装置１３０を取付けた構成である。また、エアバッグ１３６の膨張展開方向をガイドするためにシートフレーム１２４にガイドプレート１３８が取り付けられている。また、このガイドプレート１３８の移動を規制するストッパー１６０が取り付けられて

いる技術について開示がある。

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] しかしながら、図3にも図示されるように、この特許文献1の構成においてはガイドプレート138もストッパー160も共にシートフレーム124に固定されている。ここで、このストッパー160にサイドサポート性能も兼ねるために大きなストッパー162（図3における仮想線のストッパー）とすることが考えられる。ところが、大きなストッパー162とすると、シートフレーム124におけるストッパー162の固定点からストッパー162の先端までの距離Lが大きくなる。そのため、乗員の通常着座時の荷重に耐えるためには、ストッパー162を頑丈にしなければならなかった。また、シートフレーム124とストッパー162の固定点の強度をあげる必要があった。そこで、本発明者は鋭意検討の結果、このガイドプレートおよびサイドサポート部材の取付構成によって、サイドサポート部材の取付強度の向上を図ることができることに着目した。

而して、本発明は、このような点に鑑みて創案されたものであり、本発明が解決しようとする課題は、着座者が着座するシートにエアバッグ装置を備える車両用シートにおいて、サイドサポート部材の取付強度の向上を図ることにある。

課題を解決するための手段

[0005] 上記課題を解決するために、本発明の車両用シートは次の手段をとる。すなわち、本発明の車両用シートは、着座者が着座するシートにエアバッグ装置を備える車両用シートにおいて、車両用シートの骨格となるシートフレームと、このシートフレームに固定されたエアバッグ収納体と、このエアバッグ収納体に内装されたエアバッグの膨張展開方向に延設されたガイドプレートを有する。このガイドプレートは、このエアバッグが膨張展開するときの衝撃に耐えうる剛性を有している。このガイドプレートにおけるシートへの着座者の着座位置側のシート内側には、着座者の体を支持するサイドサポー

ト面が形成された合成樹脂製のサイドサポート部材を有している。このサイドサポート部材はガイドプレートに固定されている。

[0006] この発明の構成によれば、ガイドプレートは、エアバッグが膨張展開するときの衝撃に耐えうる剛性を有している。また、このガイドプレートにおけるシートへの着座者の着座位置側のシート内側には、着座者の体を支持するサイドサポート面が形成された合成樹脂製のサイドサポート部材を有している。このサイドサポート部材はシートフレームに固定される構成ではなく、剛性を有したガイドプレートに固定される構成である。そのため、サイドサポート部材の取付強度の向上を図ることができる。また、合成樹脂製のサイドサポート部材をガイドプレートに取り付けることで、サイドサポート部材の取り付け位置と端部の距離を減少させることができるため、合成樹脂製でも着座者の体を支持する強度を有することができる。

[0007] また、本発明は、次のように構成されてもよい。すなわち、サイドサポート部材には、ガイドプレートより更に延長されてエアバッグの膨張展開をガイドするエアバッグガイド面を有する。このエアバッグガイド面の裏面側は、サイドサポート面として形成されている。

[0008] この発明の構成によれば、サイドサポート部材は、エアバッグガイド面と、その裏面側はサイドサポート面として形成されているため、別部品を設けることなく二つの機能を有することができる。

発明の効果

[0009] 本発明は上記各発明の手段をとることにより次の効果を得ることができる。すなわち、本発明の車両用シートによれば、サイドサポート部材の取付強度の向上を図ることができる。また、合成樹脂製のサイドサポート部材をガイドプレートに取り付けることで、サイドサポート部材の取り付け位置と端部の距離を減少させることができるため、合成樹脂製でも着座者の体を支持する強度を有することができる。

[0010] また、本発明の車両用シートによれば、サイドサポート部材は、エアバッグガイド面と、その裏面側はサイドサポート面として形成されているため、

別部品を設けることなく二つの機能を有することができる。

図面の簡単な説明

[0011] [図1]実施例 1 に係る車両用シートの側部におけるエアバッグ装置の取り付け状態を示した断面図である。

[図2]実施例 1 に係る車両用シートの側部におけるエアバッグ装置が膨張展開したときの状態を示した断面図である。

[図3]従来の車両用シートにおけるエアバッグ装置の取り付け状態を示した断面図である。

発明を実施するための形態

[0012] 以下に、本発明を実施するための形態の実施例について図面を用いて説明する。

実施例 1

[0013] 始めに、実施例 1 の車両用シート 10 の構成について、図 1 及び図 2 を用いて説明する。図 1 は、実施例 1 に係る車両用シート 10 の側部におけるエアバッグ装置 30 の取り付け状態を示した断面図である。図 2 は、実施例 1 に係る車両用シート 10 の側部におけるエアバッグ装置 30 が膨張展開したときの状態を示した断面図である。なお、本実施例の車両用シート 10 においては、シートバック 20 に対するエアバッグ装置 30 の取付け構成に特徴を有している。その他の部分については特に変更を要しないのでその説明は省略することがある。図 1 及び図 2 は、車両用シート 10 の側部における断面図を示し、車両用シート 10 として構成されるヘッドレスト、シートクッション等の構成については図示を省略している。また、各図において、矢印で示す FWD は車両用シート 10 の前方を示している。

[0014] 本実施例の車両用シート 10 は、車両の 1 列目の運転席や助手席、2 列目や 3 列目に配設される後部座席の何れにおいても採用されるものである。なお、本実施例の車両用シート 10 は、車両の 1 列目に配設される運転席における構成を示したものである。まず、エアバッグ装置 30 を備える車両用シート 10 の概略構成を説明した上で、各構成についての説明をする。

- [0015] この車両用シート１０は、車両に備えられたものであり、乗員が着座するためのものである。図１に図示されるように、この車両用シート１０は、概略、着座者の着座部となるシートクッション（図示省略）と、着座者の頭もたれとなるヘッドレスト（図示省略）と、着座者の背凭れとなるシートバック２０と、このシートバック２０の側部にエアバッグ装置３０を備えている。
- [0016] 図１に図示されるように、この車両用シート１０のシートバック２０は着座者の背凭れ部として構成されるものである。このシートバック２０の基本構成は、概略、シートバックフレーム２４、パッド部材２２、表皮２６、バックボード２８を備えて構成されている。
- [0017] シートバックフレーム２４について説明する。シートバックフレーム２４は、シートバック２０の骨格として構成されるものであり、金属製の板状部材及び金属パイプ部材が適宜に折曲加工されて矩形枠状に形成されている。図１に図示されているシートバックフレーム２４は、板金部材であって車両上下方向に縦通した断面略Ｕの字状に形成されたサイドフレーム２４ａである。このサイドフレーム２４ａは、シートバック２０の幅方向に左右一対で構成されており、図１に図示されているサイドフレーム２４ａは、右側に構成されたサイドフレーム２４ａである。
- [0018] 次にパッド部材２２について説明する。パッド部材２２は、ポリウレタン樹脂を発泡成形させて形成されており、シートバック２０に凭れ掛かった着座者の背凭れ荷重を、それ自体の弾性変形によって軟らかく受け止められるものである。また、パッド部材２２は、その表面をシートバック２０の背凭れ面の外形形状として、着座者の背中を支持する天板部２２ａと、着座者の胴部側方を支持するサイドサポート部２２ｂが形成されており、シートバックフレーム２４に被せ付けられている。
- [0019] 次に表皮２６について説明する。この表皮２６は、シートバックフレーム２４に被せ付けられたパッド部材２２を包着状に覆って固定するためのものである。また、パッド部材２２等の構成を包み込んで全体としてすっきりし

た見栄えとすることでシートバック２０全体の外観上の見栄えを良くする機能を果たしている。いわば意匠面の向上を図っているものである。また、パッド部材２２等の構成品を保護する役目を果たす。また、着座者の肌触り感の向上を図るためのものである。このシート表皮２６は、本皮、合皮、繊維等が適宜選択されて構成されて、シートバック２０のパッド部材２２の外表面を包着するように形成されており、パッド部材２２を被覆して、シートバック２０の側部で掛け付け固定されている。

[0020] 次にバックボード２８について説明する。このバックボード２８は、シートバック２０の背面側を覆い、外観の見栄え向上を図ると共に、後部からの衝撃が着座者に伝達されないように保護するために構成されているものである。このバックボード２８は、合成樹脂製の板状部材が、シートバック２０の背面側において略全面を覆うように形成されており、シートバック２０の背面側においてはめ込まれて固定されている。

[0021] さらに、この車両用シート１０の側部には、エアバッグ装置３０が構成されている。図１および図２に図示されるように、このシートバック２０の側部に備えられたエアバッグ装置３０は、車両の側面からの衝突による衝撃に対し、衝突検知センサ（図示省略）からの出力に基いてイグナイタ（発火装置）（図示省略）を作動させ、インフレーター３４（ガス発生器）から発生するガスの圧力によってエアバッグ３６を瞬時に乗員の側部とこれに対面する車室内の側壁面（図示省略）との間にエアバッグ３６を膨張展開させて、衝突時に乗員を保護する働きをなすものである。

[0022] 図１には、運転席として構成される車両用シート１０のシートバック２０の右側部の断面図が図示されている。このシートバック２０の右側内部には、図示を省略した車室内の側面壁（例えば、ドアトリム）に対向する位置にエアバッグ装置３０が取り付けられている。エアバッグ装置３０は、エアバッグ３６と、エアバッグ３６を収納するエアバッグ収納体３２と、インフレーター３４、イグナイタ（図示省略）、ガイドプレート３８、外付けエアバッグカバー４０から構成されている。

[0023] このエアバッグ装置 30 は、車両に取付けられた衝突検知センサからの出力に基いてイグナイタ（発火装置）（図示省略）を作動させ、インフレーター 34（ガス発生器）から発生するガスの圧力によってエアバッグ 36 を瞬時に乗員と車体部分の間に膨張展開させるものであり、衝突時において乗員を適切に保護するための装置である。図 1 に図示されるように、エアバッグ装置 30 の内部構成は、エアバッグ収納体 32 内にイグナイタ（発火装置）（図示省略）、インフレーター 34（ガス発生器）、エアバッグ 36 が内装されており、この衝突検知センサからの衝撃時の出力信号をエアバッグ装置 30 に伝達する配線（図示省略）が構成されている。また、エアバッグ収納体 32 の側壁に開孔部が設けてあり、エアバッグ収納体 32 内方側から外方側に向けてエアバッグ装置 30 を締結固定するためのボルト 50 が突き出している。エアバッグ収納体 32 はサイドフレーム 24 a の側部に隣接して、後述するガイドプレート 38 と共に、ボルト 50 及びナット 52 によって締結固定されている。これは、シートフレームの剛性を利用してエアバッグ装置 30 を取付けた構成である。

[0024] 次にガイドプレート 38 について説明する。このガイドプレート 38 は、上記エアバッグ装置 30 のエアバッグ収納体 32 に内装されたエアバッグ 36 を膨張展開方向に導くために車両前方側へ突き出したガイドとして構成されたものである。このガイドプレート 38 は、エアバッグ 36 が膨張展開するときの衝撃に耐えうる剛性を有した金属状の平板部材で構成されている。このガイドプレート 38 は、シートバックフレーム 24 のサイドフレーム 24 a に沿って固定保持されている。また、このガイドプレート 38 は、車両上下方向においてエアバッグ 36 の膨張展開領域の範囲を占める大きさで形成されている。詳しくは、このガイドプレート 38 は、エアバッグ装置 30 のエアバッグ収納体 32 とボルト 50 及びナット 52 で共締めされて締結固定されている。

[0025] 次に外付けエアバッグカバー 40 について説明する。図 1 に図示されるように、この外付けエアバッグカバー 40 は、エアバッグ装置 30 が不作動時

においてはシートバック 20 の側部の外観として構成されている。また、エアバッグ装置 30 が作動したときには、この外付けエアバッグカバー 40 が扉状に開放されてシートバック 20 の側部からエアバッグ 36 が膨張展開されるものである。この外付けエアバッグカバー 40 は、合成樹脂製の射出成形品として形成されており、シートバック 20 の側部の湾曲部分を形成しており、シートバックフレーム 24 のサイドフレーム 24 a に沿った形状に形成されている。この外付けエアバッグカバー 40 の後端部がサイドフレーム 24 a とボルト 50 及びナット 52 によって締結固定されている。

[0026] また、シートバック 20 の側部においてエアバッグ収納体 32 より車両後方側には、車両上下方向にインテグラルヒンジ 40 a が形成されている。これにより、外付けエアバッグカバー 40 は、インテグラルヒンジ 40 a を中心として開閉可能に構成されている。シートバック 20 の側部においてエアバッグ収納体 32 より車両前方側は、この外付けエアバッグカバー 40 をはめ込み固定する係合突起 40 c が形成されており、後述するサポート部材と係合することでシートバック 20 の側部に固定保持されている。

[0027] また、シートバック 20 の側部においてエアバッグ収納体 32 より車両前方側には、上記インテグラルヒンジ 40 a と平行して車両前後方向に薄肉状の切り欠き部 40 b が形成されている。この切り欠き部 40 b は、エアバッグ 36 の膨張展開時における圧力によって破断するように脆弱に形成されている。これにより、この切り欠き部 40 b は、エアバッグ 36 の膨張展開時の膨張展開圧力によって破断することで、外付けエアバッグカバー 40 が開放される構成とされている。

[0028] 次にサイドサポート部材 42 について説明する。このサイドサポート部材 42 は、二つの機能を有している。一つ目は、エアバッグ 36 の膨張展開時においてエアバッグ 36 を膨張展開方向に導くためのエアバッグ膨張展開ガイド機能である。二つ目に、着座者の胴部側方を支持するサイドサポート機能である。このサイドサポート部材 42 は、合成樹脂製の射出成形品の板状部材として構成されている。また、サイドサポート部材 42 は、車両上下方

向においてエアバッグ３６の膨張展開領域の範囲を占める大きさで形成されてシートバックフレーム２４のサイドフレーム２４aに沿って配置構成されている。また、一方の面は、着座者の胴部側方支持するサイドサポート機能を果たすサイドサポート面４２aとして湾曲した面が形成されている。またサイドサポート面４２aの裏面側は、エアバッグ３６の膨張展開時においてエアバッグ３６を膨張展開方向に導くためのガイド機能果たすエアバッグガイド面４２bとして平坦な面が形成されている。また、略中央にはボルト５０等の締結具が挿通可能な開孔部が形成されている。また、エアバッグガイド面４２b側には、上述した外付けエアバッグカバー４０の係合部４２cが形成されている。

[0029] このサイドサポート部材４２の配設構成は以下のとおりである。このサイドサポート部材４２は、上述したガイドプレート３８に固定されている。詳細には、ガイドプレート３８が、シートバック２０のサイドフレーム２４aに隣接して締結固定されている。そして、サイドサポート部材４２は、このガイドプレート３８に対してシートへの着座者の着座位置側に配置されており、ガイドプレート３８とエアバッグガイド面４２b側が面接触してボルト５０及びナット５２で共締めされて締結固定されている。なお、サイドサポート面４２a側は、ボルト５０、ナット５２が突出しない開口形状に形成されている。これによって、エアバッグガイド面４２bの裏面側のサイドサポート面４２aはシートの着座者側に対向した向きに固定保持される。

[0030] 更に、このサイドサポート部材４２は、ガイドプレート３８より更に車両前方側に延長されて形成されている。これは、エアバッグ３６の膨張展開をガイドするエアバッグガイド面４２bを更に有効に機能させるために延設されたものである。これに加え、エアバッグガイド面４２bの裏面側は、サイドサポート機能を更に有効に機能させるために上述したサイドサポート面４２aが形成されている。

[0031] 上記構成からなる本実施例における車両用シート１０の作動は次の通りである。図１及び図２に示されるように、車両の側面から衝突を受けると、こ

のエアバッグ装置 30 は、車両に取付けられた衝突検知センサ（図示省略）からの出力に基いてエアバッグ収納体 32 に収納されているイグナイタ（図示省略）が作動し、インフレーター 34 から発生するガスの圧力により、エアバッグ収納体 32 からエアバッグ 36 が瞬時に膨張展開される。

[0032] 外付けエアバッグカバー 40 の開放前においては、外付けエアバッグカバー 40 の内部は、エアバッグ 36 の膨張展開によってエアバッグ 36 で埋めつくされる。このとき、エアバッグ 36 の膨張展開の圧力は、ガイドプレート 38 及びサイドサポート部材 42 のエアバッグガイド面 42b の剛性によって着座者側へは及ばない。そのため、このエアバッグ 36 の膨張展開の圧力は、車両外方側へ働く。そうすると、エアバッグ 36 の膨張展開の圧力は、外付けエアバッグカバー 40 の切り欠き部 40b にかかる。そのため、切り欠き部 40b が破断して外付けエアバッグカバー 40 は、インテグラルヒンジ 40a を中心に車両外方側に回転して開放される。そして、エアバッグ 36 が瞬時に乗員と車体部分の間に膨張展開されて、衝突時において乗員を適切に保護する。

[0033] このように、本実施例の車両用シート 10 によれば、ガイドプレート 38 は、エアバッグ 36 が膨張展開するときの衝撃に耐えうる剛性を有している。また、このガイドプレート 38 におけるシートへの着座者の着座位置側のシート内側には、着座者の体を支持するサイドサポート面 42a が形成された合成樹脂製のサイドサポート部材 42 を有している。このサイドサポート部材 42 はシートバックフレーム 24 に固定される構成ではなく、剛性を有したガイドプレート 38 に固定される構成である。そのため、サイドサポート部材 42 の取付強度の向上を図ることができる。また、合成樹脂製のサイドサポート部材 42 をガイドプレート 38 に取り付けることで、サイドサポート部材 42 の取り付け位置と端部の距離を減少させることができるため、合成樹脂製でも着座者の体を支持する強度を有することができる。

[0034] また、サイドサポート部材 42 は、エアバッグガイド面 42b と、その裏面側はサイドサポート面 42a として形成されているため、別部品を設ける

ことなく二つの機能を有することができる。

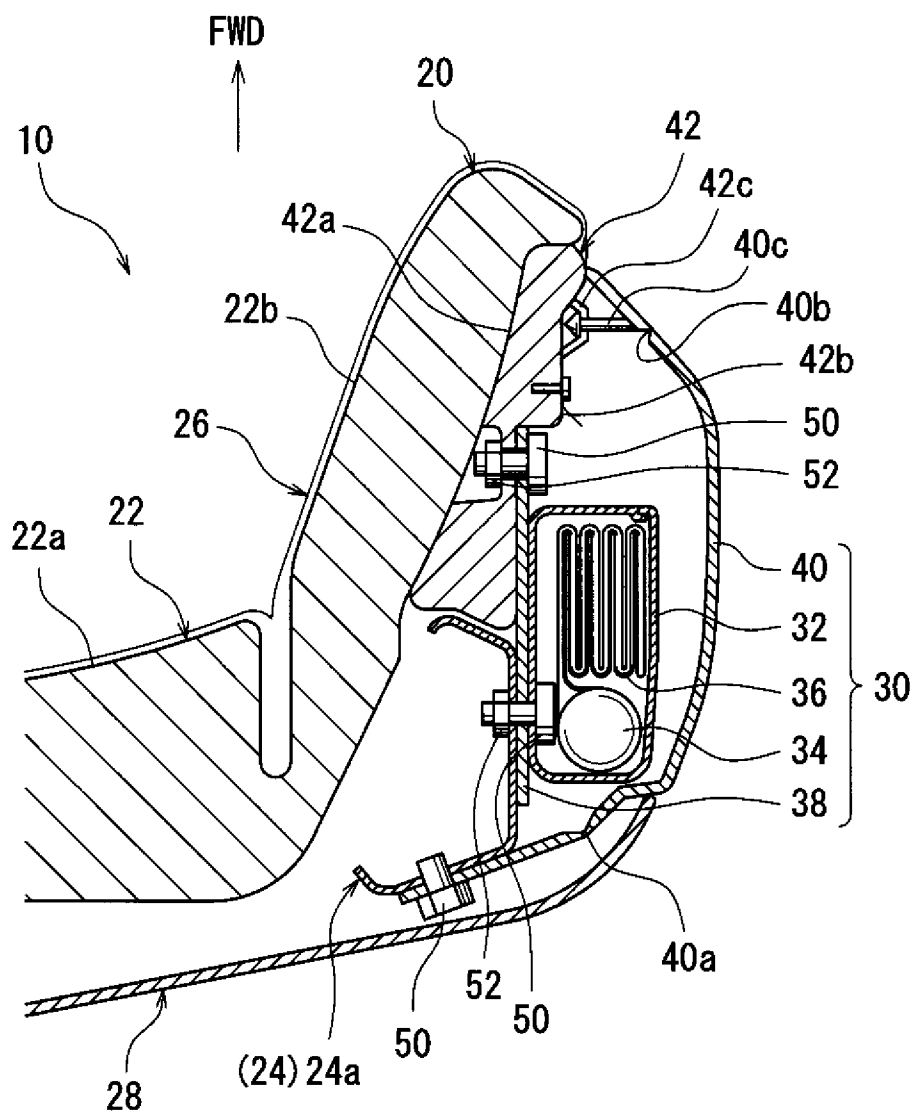
[0035] 以上、本発明の実施形態を一つの実施例を用いて説明したが、本発明の車両用シートは、本実施の形態に限定されず、本発明の要旨を変更しない範囲で種々の変更、追加、削除が可能である。例えば、本実施例においては、シートバック20の側部にエアバッグ装置30を備えた構成のものについて示した。しかしながらこれに限定されるものではなく、着座者が着座する車両用シートのシートフレームにエアバッグ装置30を備える構成であれば、シートバック以外にシートクッションにも適用できるものである。

また、例えば、本実施例においては、ボルト50、ナット52の構成について説明したが、これに限定されず、締結固定するための締結具であれば螺子部材等も適宜選択できるものである。

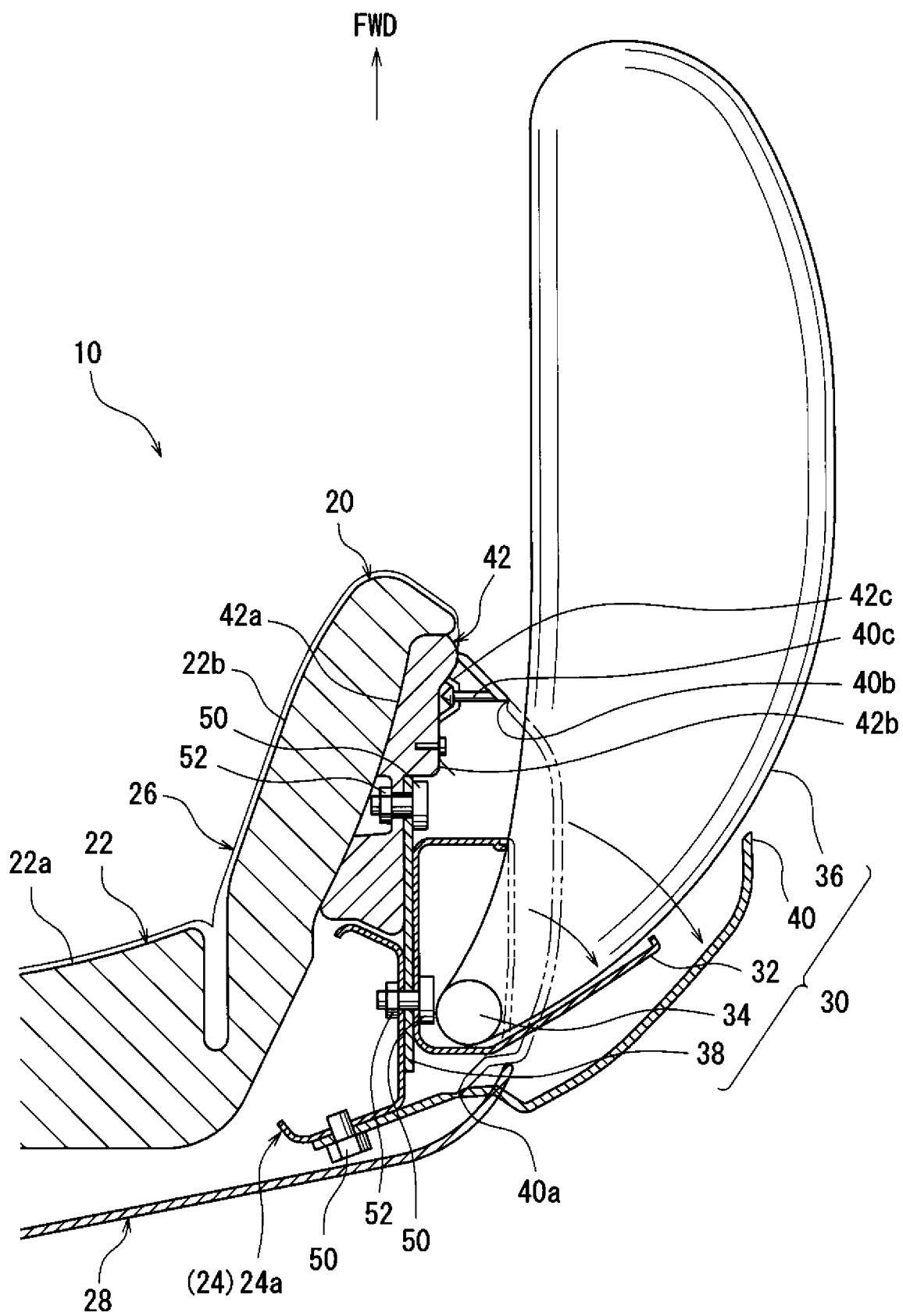
請求の範囲

- [請求項1] 着座者が着座するシートにエアバッグ装置を備える車両用シートにおいて、
- 車両用シートの骨格となるシートフレームと、
- 該シートフレームに固定されたエアバッグ収納体と、
- 該エアバッグ収納体に内装されたエアバッグの膨張展開方向に延設されたガイドプレートとを有し、
- 該ガイドプレートは、該エアバッグが膨張展開するときの衝撃に耐える剛性を有しており、
- 該ガイドプレートにおけるシートへの着座者の着座位置側のシート内側には、着座者の体を支持するサイドサポート面が形成された合成樹脂製のサイドサポート部材を有しており、
- 該サイドサポート部材は前記ガイドプレートに固定されている車両用シート。
- [請求項2] 請求項1に記載の車両用シートであって、
- 前記サイドサポート部材には、前記ガイドプレートより更に延長されてエアバッグの膨張展開をガイドするエアバッグガイド面を有し、
- 該エアバッグガイド面の裏面側は、前記サイドサポート面として形成されている車両用シート。

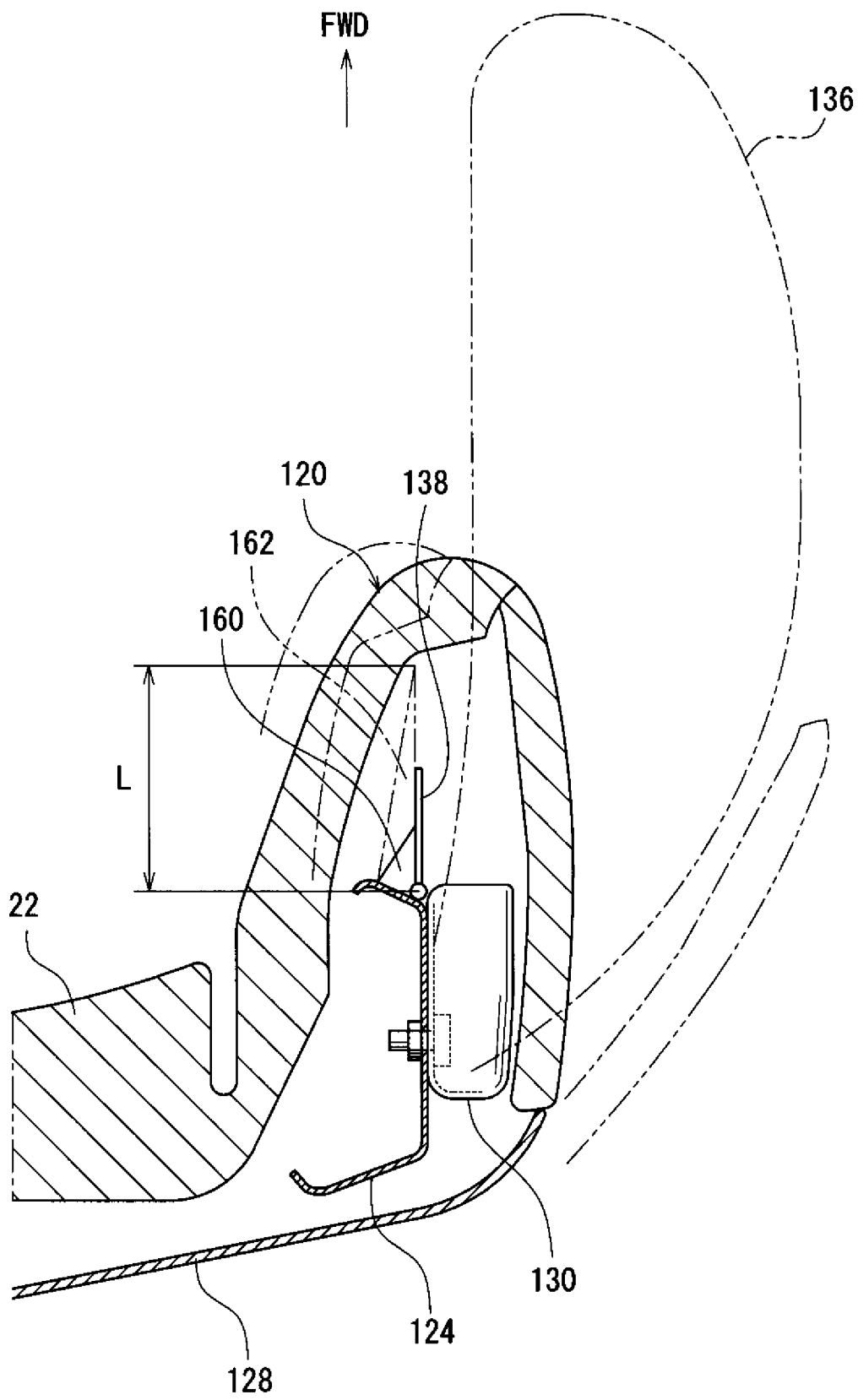
[図1]



[図2]



[図3]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2010/050901

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

B60N2/42(2006.01) i, A47C7/14(2006.01) i, B60R21/207(2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

B60N2/42, A47C7/14, B60R21/207

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2010

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2010 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2010

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2007-006961 A (Honda Motor Co., Ltd.), 18 January 2007 (18.01.2007), paragraphs [0024] to [0028], [0035]; fig. 4 (Family: none)	1-2

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
05 March, 2010 (05.03.10)Date of mailing of the international search report
16 March, 2010 (16.03.10)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. B60N2/42(2006.01)i, A47C7/14(2006.01)i, B60R21/207(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. B60N2/42, A47C7/14, B60R21/207

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 0 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 0 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 0 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2007-006961 A（本田技研工業株式会社）2007.01.18, 段落【0024】 - 【0028】 , 【0035】 , 【図 4】（ファミリーなし）	1-2

☐ C 欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の 1 以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

0 5 . 0 3 . 2 0 1 0

国際調査報告の発送日

1 6 . 0 3 . 2 0 1 0

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号

特許庁審査官（権限のある職員）

川口 真一

3 R

4 6 5 9

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 8 6